

大花羽小6年生A

大花羽小学校は少ない人数で、6年間友達も同じでしたが、中学校ではいろいろな小学校から人が集まるので不安もあるけれど、部活動や学校生活の中で新たな友達と出会えるのがとても楽しみです。

大花羽小6年生B

中学校生活で楽しみなことは部活動です。部活動では美術部に入りいろいろな風景画を書きたいと思っています。

大花羽小5年生A

菅原小のみんなと一緒に勉強したり遊んだりすることが楽しみです。

大花羽小5年生B

学童で友達になった子とこれからはたくさん遊べたら良いと思っています。

議会

それぞれの思いで、中学校あるいは菅原小学校にいくと思いますが、友達と仲良くしながら、勉強に励んでください。

実行委員会にお聞きします。「大花羽小フェスティバル」実行委員会の正式名称及び構成員はどのくらいですか。

くすの木会

大花羽小で一番古くから見守ってくれたのが、昇降口横にあるクスノキだったので、実行委員会の名称を「くすの木会」として20人ほどで活動しています。

議会

フェスティバルの名称ですけれども、「ありがとう大花羽小学校2022」これに込め

た想いはどのようなものでしょう。

くすの木会

学び舎がなくなる寂しさもあるけれども、これから巣立つ子どもたち、見守ってくれた地域の人に、また大花羽小学校に感謝の意を込めて開催しました。

議会

フェスティバルを実施するにあたって、大変だったこと、また内容もいろいろな催しを行いましたけれども、中心とするところは何になりますか。

くすの木会

子どもたちが一番喜ぶ内容にしたいというのが強かったので、夜空に希望を乗せて飛ばすバルーンリリースです。バルーンは火が使えないのでヘリウムガスでしたが、入手するのが困難でそろえるのが大変でした。バルーンは中にLEDの照明を入れて、子どもたちが短冊に願いや希望などを書いて夜空に飛ばしました。ただし、飛ばしたままにできないので、紐をつけて回収できるようにして、



ありがとう大花羽小学校2022の様子

15メートルぐらいの高さまで上げるようにしました。

今回、統合するということで大花羽小学校の子どもたちだけではなく、菅原小学校の子どもたちにも参加してもらい、一緒に飛ばして一緒に感動してこれから同じ学び舎で楽しく過ごしてくれればという願いも込めて実施しました。

議会

いろいろと時間をかけて、本当に大変な思いをしながら小学校への感謝と思い出の時間をしっかりと作り上げたわけですが、今後、この場所この地域がどうあつて欲しいか、その願いや想いを聞かせてください。

くすの木会

今回フェスティバルを多くの方にお世話になって行いましたが、国民学校の最後の卒業生の90歳ぐらいのおじいちゃんや3人ほど来てくれて、何年も会えなかったのにフェスティバルをやってもらったおかげで、同窓会のようなことができたと思えました。だから、何かのきっかけを作れば人が集まるのかなと思います。やはり、この大花羽地域のコミュニティの場として、みんなが集まって楽しむ、想いが伝わるような場所であってほしいなど強く思います。私たち若い世代が協力し合って、ここに住んでいてよかったと思える地区にできればと思っています。

(令和5年1月インタビュー)

※市民インタビューは感染対策を徹底して行っております。